



TEACHING STATEMENT

横山 草介

東京都市大学 人間科学部 人間科学科

作成日 2019年9月1日

更新日 2024年4月20日

1. 教育の責務 *Education Responsibilities*

東京都市大学 人間科学部 人間科学科に所属しています。将来、教育の道を志す学生たちに教育の理論的・実践的な教養を身につけてもらうことを教育活動の主軸に置いています。

専門は「教育人間学 *Anthropology of Education*」です。「教育人間学」は、教育という営みを糸口として「人間とはなにか?」という根源的な問いを探究していく学問です。

学部における主な教授経験科目は、(1) 教育の歴史や思想を扱う「教育原理」(資格必修/2年生/前期)、「保育原理」(資格必修/1年生/前期)、(2) 教育と現代社会との関係を問う「教育社会学」(資格必修/2年生/前期)、(3) 教育実践の計画やデザインについて学ぶ「カリキュラム論」(資格必修/3年生/前期)、(3) 教育という営みを広い視野から捉え直す「教育学概論」(資格必修/1年生/後期)です。特別研究(卒業必修/3年生/通年)、卒業研究(卒業必修/4年生/通年)を含む研究室のゼミナールではインタビュー、フィールドワーク、映像分析、メディア分析、ディスコース分析などの「質的研究法」を用いた研究指導を行っています。研究室の名称は「教育人間学研究室」です。また、大学院については東京都市大学 総合理工学研究科 電気化学専攻 医用工学領域に所属しています。

学部の学務分掌においては教務委員長を務め、学生の修学や教員の職務のサポートに尽力しています。

表1 東京都市大学における学部の単独担当科目

科目名称	学年	人数	開講期	担当年度	科目概要	区分
保育原理	1 学年	約 100 名	前期	2018 年～20 年	保育の歴史と思想 「過去から学ぶ」	資格必修
教育学概論	1 学年	約 100 名	後期	2017 年～現在	教育と人間のつながり 「様々な学問から学ぶ」	資格必修
教育原理	2 学年	約 100 名	前期	2017 年～現在	教育の歴史と思想 「過去から学ぶ」	資格必修
教育社会学	2 学年	約 100 名	前期	2017 年～現在	教育と社会のつながり 「現在を考える」	資格必修
カリキュラム論	3 学年	約 100 名	後期	2017 年～現在	教育の計画とデザイン 「未来を考える」	資格必修
特別研究	3 学年	8 名	通年	2017 年～現在	質的研究法を学ぶ 「人の生き姿に学ぶ」	卒業必修
卒業研究	4 学年	8 名	通年	2017 年～現在	質的研究法を用いた研究 「人の生き姿に学ぶ」	卒業必修

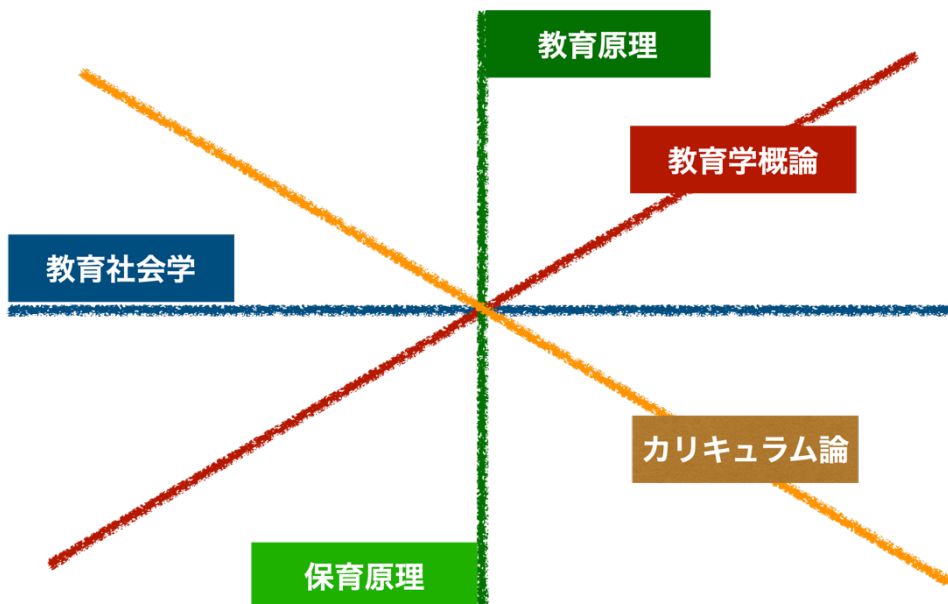
2. 教育の理念 *Educational Philosophy*

教育という営みを人間の成長や発達、生活、人生のあらゆる側面と関係を持つ営みとして広い視野をも

って理解するとともに、日々の生活のなかに様々なかたちの「教育の現場」を見だし、自らの子ども観や教育観、人間観を問い直しながら教育の本質を考え続ける姿勢を身につけてもらうことを目指しています。また、自身の学びの成果を、教育に関わる様々なフィールドや実践者として役立てていこうとするときに必要になる柔軟な発想力や応用力を身につけてほしいと考えています。

- ① 教育という営みは、人間の成長や発達、生活、人生の根幹に関わる営みです。その担い手に求められる力は、教育の実践に関わる力に留まらず、教育の本質についてつねに探求し続けていく柔軟な思考力です。教育や保育の担い手に相応しい幅広い教養と公正な人間観を身につけて欲しいと考えています。
- ② 教育のフィールドは、幼稚園、保育所、認定こども園、学校といった制度的なシステムに限られません。私たちの日常生活のなかにさまざまなかたちで現れる教育のフィールドに目を向け、自分自身の子ども観や教育観、人間観を問い直しながら、教育の本質について考えを巡らせて欲しいと考えています。
- ③ 教育という営みについて考えていく上で学術理論の思考と、現場での実践の思考とは、互いに支え合う関係にあります。自分自身の学びの成果を、教育に関わる様々なフィールドや、現場の実践者の視点から役立てていこうとするときに必要となる柔軟な発想力や応用力を身につけて欲しいと考えています。

図1 学部教育における主な担当科目の関連イメージ



保育原理：過去から現在につながる保育の思想や歴史を探究する「縦糸」の授業
教育原理：過去から現在につながる教育の思想や歴史を探究する「縦糸」の授業
教育社会学：教育や保育と現代社会とのつながりを探究する「横糸」の授業
教育学概論：教育という営みをさまざまな学問の観点から探究する「斜糸」の授業
カリキュラム論：学んだ知識を未来の教育実践へとつなげていく「斜糸」の授業

3. 教育の方針と方法 *Education Policy & Methods*

学生の深い学びを支えるための指針として、Chi, M. & Wylie, R. (2014) によって提唱された ICAP フレームワークという考え方を参考にしています。ICAP フレームワーク (Chi, M. & Wylie, R., 2014) は、学習者の学習材 (learning materials) への関与の度合いと、学習者の学びの深浅との関連を類型化した枠組みです。より具体的には学び手の学習材への関与の仕方を Interactive (相互的)、Constructive (構成的)、Active (能動的)、Passive (受動的) の4つのモードに分類したもので、それぞれの頭文字をとって ICAP と呼ばれています。学習者の学びの深浅は Passive であるほど「浅く (shallow)」、Interactive に至るほど「深く (deep)」なるとされます (Chi, M. & Wylie, R., 2014; 横山, 2020)。Chi, M. & Wylie, R. (2014) の ICAP フレームワークの考え方については下記の下記の原稿で詳しい解説を行っています(資料10)。

横山草介. (2020). 学習材のブリコラージュからディープラーニングへ: ICAP フレームワークからの示唆. 東京都市大学教育年報, vol. 31. <https://researchmap.jp/sou-yokoyama/misc/33171385> (資料10)

表2 学び手の学習材への関与の4つのモード (Chi, M. & Wylie, R., 2014, p. 221)

	PASSIVE <i>Receiving</i>	ACTIVE <i>Manipulating</i>	CONSTRUCTIVE <i>Generating</i>	INTERACTIVE <i>Dialoguing</i>
講義を聴く	ただ聴いている。聴く以外のことはしていない。	内容を再現したり、解決の手立てを書き出したり、ノートをとったりする。	声に出して復習したり、概念図を作ったり、質問したりする。	2人組や少人数グループで各々の立場を明確にした上で議論する。
テキストを読む	ただ黙読/音読をしている。読む以外のことはしていない。	下線を引いたり、文を目立たせたり、要約を作ったりする。	自分の言葉で説明したり、ノートにまとめ直したり、複数のテキストの情報をまとめたりする。	仲間と一緒にお互いの理解について質疑応答を交わす。
動画を視聴する	ただ動画を視聴している。視聴する以外のこととはしていない。	動画を止めて見たり、先に進めて見たり、巻き戻して見たりする。	動画の要点を説明したり、既有知識や他の学習材と比較したり、対比したりする。	仲間と一緒に納得のいく説明について議論したり、類似点や相違点について話し合ったりする。

ここに掲げた指針を土台として、実際の教育活動においては (1) 教育や保育に関わるさまざまな思想や社会事象について学ぶこと、(2) 自分自身の教育観や子ども観、人間観を問い直す機会を持つこと、(3) 身につけた知識や技能を実践に活かす方法を考えること、(4) 他者の多様な意見や考え方に触れ、自身の視野や思考の幅を広げること、の4つを重視しています。以下、この4つについて実際の授業で心掛けてきたことを含めて紹介します。

① 教育や保育に関わるさまざまな思想や社会事象について学ぶこと

- ・ 教育や保育をめぐる歴史や思想について、特定の人物の仕事や歴史的な出来事に焦点を当てながら、モデル図などを活用して分かりやすく伝えることを心掛けています (資料1, 2, 3)。
- ・ 教育や保育をめぐる社会的事象について政府や民間シンクタンクの統計データを使いながら、個々の社会事象の背後にあることを学生とともに推論、議論しながら授業を進めています (資料4)。
- ・ すべての授業資料は大学の授業支援システム Web Class を通じて履修者に公開しています。学生が事前学習、事後学習においていつでも活用できるように用意しています (資料8)。
- ・ 授業は録画し、オンデマンド教材として編集した上で、授業資料に加えて大学の授業支援システム Web Class を通じて公開しています。学生が事前学習、事後学習においていつでも活用できるように環境を整えています。

② 自分自身の教育観や子ども観、人間観を問い直す機会をもつこと

- ・ 毎回の授業後に 300 字～1000 字のリフレクションシートを書いてもらっています。授業で学んだことを参考に自分自身の考えや意見を整理してまとめる機会を大事にしています (資料1, 2, 3, 4, 5)。
- ・ 各授業の最終課題として 2000 字～3000 字程度のレポートを課しています。授業で学んだことを土台に自分自身の考えを時間をかけて整理し、論述する機会を大事にしています (資料1, 2, 3, 4)。
- ・ 各授業のリフレクションシートは大学の授業支援システム Web Class を通じてオンラインで提出してもらっています。また、提出されたリフレクションシートは匿名で履修者全員に公開し、他の学生の考えたことや意見から学ぶことができる環境を用意しています (資料8)。
- ・ 提出されたリフレクションシートに対しては教員が総評というスタイルでフィードバックを返し、履修者の学びを深めるための助言や支援の機会としています。

③ 身につけた知識を実践に活かす方法を考えること

- ・ 授業を通して身につけた知識や技能を使って、自分なりに教育や保育の計画を立案、デザインする機会を設けています。授業で立案した計画をもとに教育実習に臨む学生もいます (資料5)。
- ・ 学生が立てた計画は大学の授業支援システム Web Class を通じて匿名で公開し、他の学生の計画やアイデアから学ぶことのできる環境を用意しています (資料8)。
- ・ 学生の立てた計画に対しては教員が総評というスタイルでフィードバックを返し、よりよい計画にしていくための助言や支援を行っています。

④ 他者の多様な意見や考え方に触れ、自身の視野を広げること

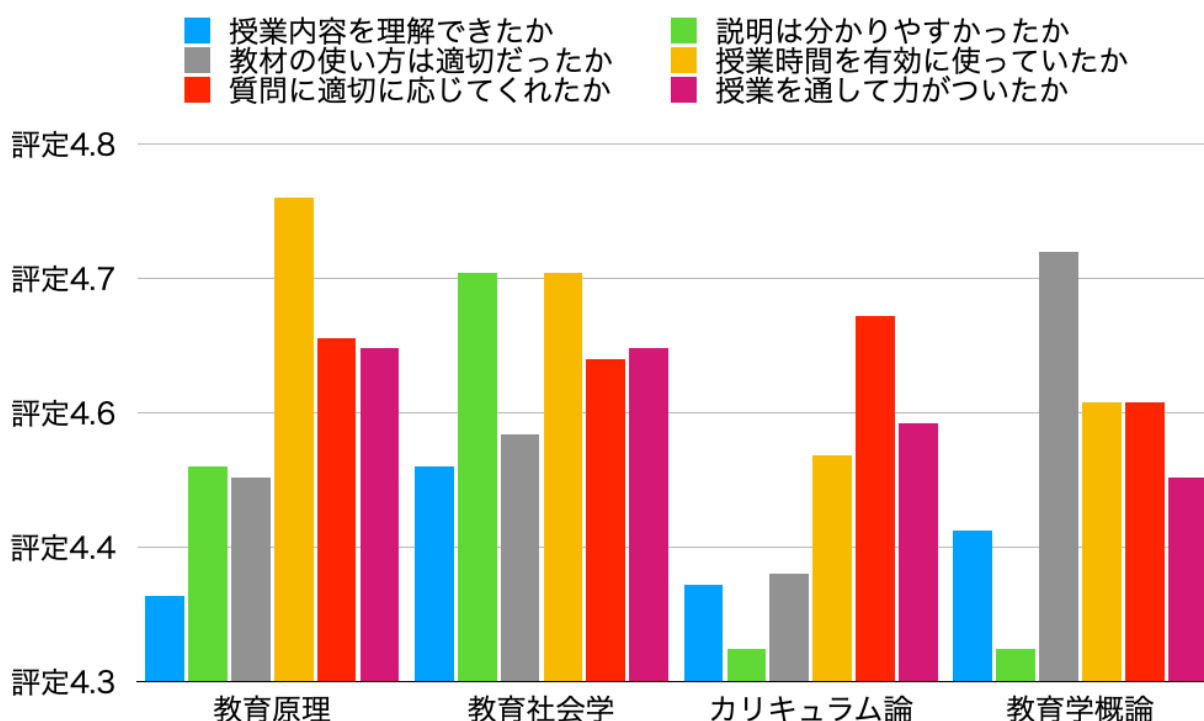
- ・ 特定のトピックについて意見を交流するペアワークやグループワークを取り入れ、他の学生の考えたことや意見から学ぶ機会を大切にしています。
- ・ 授業において Slido や Zoom, Teams, Slack といったオンラインアプリケーションを活用し、学生の考えや意見を聞いたり、クラス全体に共有したりしながら授業を進めています。
- ・ 各授業のリフレクションシートは大学の授業支援システム Web Class を通じて匿名で履修者に公開し、他の学生の考えたことや意見から学ぶことのできる環境を用意しています (資料8)。

4. 教育の評価 *Self Assessment*

教育活動に対する評価として履修学生による授業評価アンケートの結果の一部を転記します(資料9)。

なお、評価は授業評価アンケートにおける次の6つの選択肢を点数に改め、平均を出したものです。選択肢は「そう思う 5点」「まあそう思う 4点」「どちらともいえない 3点」「あまりそう思わない 2点」「そう思わない 1点」「当てはまらない 0点」から成っています。いまだ改善の余地はあるものの、いずれの担当科目においても評点4.3以上が平均値となっており、「そう思う」「まあそう思う」の回答が多くなっていることが分かります。このことから、概ね適切な授業運営になっていると言えます。ただし、現状に満足することなく、さらなる授業改善に努める必要があると考えています。

2023年度の主要担当科目における授業評価アンケートの結果(項目抜粋)



5. 教育の目標 *Educational Goals*

1. 教育における長期目標

教育という営みを、人間の成長や発達、生活、人生の根幹に関わる重要な営みとして理解し、教育の本質についてつねに探求し続けていく柔軟な思考力と、教育の担い手に相応しい幅広い教養と公正な人間観を身につけた学生の育成を目指しています。そのために教員自身も学び続ける姿勢を忘れず、つねに先端の知識を学び、学生とともに成長していける存在でありたいと考えています。

2. 教育における短期目標

学生が自らの考えや意見を発表しやすい学習環境や授業構成をつねに工夫するとともに、学生同士が

自らの考えや意見を交流し、互いに学び合う機会を創出することを目指しています。担当授業における具体的な工夫として以下のことを実践していきたいと考えています。

- ・ 協同学習の場面においては、個人で考える時間と、ペアやグループで考える時間を組み合わせることによって、自分自身の考えや意見をまとめる個人学習の時間と、それらを共有し、学び合う協同学習の時間との両方を連続的に位置づける。
- ・ Slido や Zoom などの Web アプリを活用することによって学生が自らの考えや意見を表明しやすい学習環境を提供するとともに、学生の考えや意見を積極的にとりあげ対話的に授業を展開する。
- ・ 授業において提出された授業課題やリフレクションシートは匿名で履修者全員に公開、共有し、他の学生の考えたことや意見から学ぶことができる学習環境を用意する。
- ・ 授業評価アンケートの結果から履修者の事前学習と事後学習の内容や取り組み時間の課題がみえてきている。事前学習の内容と事後学習の内容とを具体的に示すことによって学習効果の向上をはかりたい。

添付資料 ※ オンライン公開版については資料の添付を省略させていただきます。

- 添付資料 1. 「保育原理」授業シラバス
- 添付資料 2. 「教育学概論」授業シラバス
- 添付資料 3. 「教育原理」授業シラバス
- 添付資料 4. 「教育社会学」授業シラバス
- 添付資料 5. 「カリキュラム論」授業シラバス
- 添付資料 6. 「特別研究」シラバス
- 添付資料 7. 「卒業研究」シラバス
- 添付資料 8. 授業初回のオリエンテーション資料
- 添付資料 9. 2023 年度 履修者による授業評価アンケート
- 添付資料 10. 横山草介. (2020) . 学習材のブリコラージュからディープラーニングへ : ICAP フレームワークからの示唆. 東京都市大学教育年報, vol. 31, 93-96.
<https://researchmap.jp/sou-yokoyama/misc/33171385>